

斯波氏に仕えた。戦国の時代には織田、豊臣の臣となつて多くの功をたて、小田原の戦のち浜松一二万石、また関ヶ原の役のち松江にて二三万石を領した。

現在、邸跡は僅かその跡を残すのみである。

大正一五年一〇月、県が邸跡の標碑をたて、これを讃えた。

○天然記念物

小口神社の山柿

大口町中小口

昭和五二年八月七日 町指定

老樹であるが、樹勢は旺盛で毎年多くの実をつけ多数の枝が斜に下垂し、その樹形は優美である。地元では神木として珍重している。樹高約一五米、根圍約三米、枝張東西約一三米、南北約一〇米あり、平野部でこれだけの大樹はめずらしい。

なお、この「小口神社」は、古書延喜式神名帳に記され式内社として後世に伝えられ、また、尾張本國帳には「從三位小口天神」と記され、町内で現



図4-33 天然記念樹「マメナシ」



図4-32 堀尾吉晴邸跡

存する神社の中でもっとも古い神社と考えられる。

天神社のマメナシ

大口町秋田

昭和五年八月一〇日 町指定

秋田長桜部落にある天神社境内の樹木で、高さ約

一〇米、根囲約五〇センチ、枝張約六米ほどである。

この樹種は、かつては、濃尾平野に広く野生していたが、今日では数少ないといわれる。花は白色で、

実は指頭大、味はやや酸味をもっている。別名「いんなし」「いぬなし」ともよばれている。

また、この天神社には往昔より神事として「湯の花」の儀式が行われている。

この儀式は秋の豊年祭（秋祭）に行われ、昔の形態をそのまま伝え、この地方ではめずらしい神事であり、町指定（昭和五〇年六月二日）になっている。

第二節 遺跡・名所

町内には神社・寺院・城・邸宅・塚などに関する古跡が多くあったといわれるが、大久地城（小口城）跡・堀尾邸跡など一、二のほかは、いづれもこれを実証するような史料がまったく見当たらない。

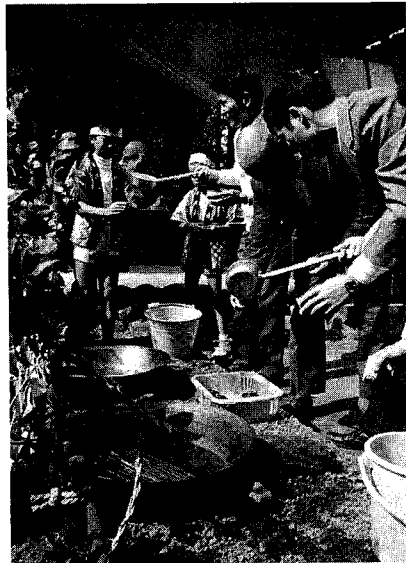
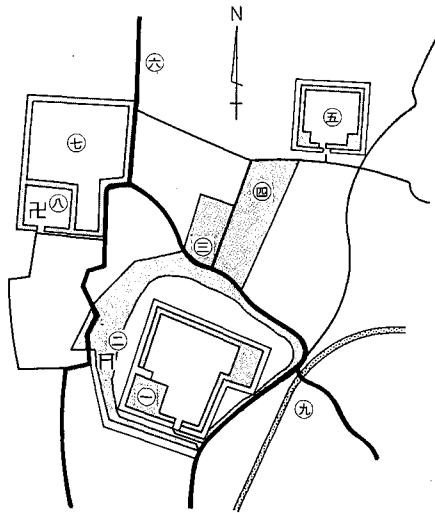


図4-34

天神社（長桜）に伝わる「湯立て」の神事



一	織田遠江守居城	六	織田街道ト称シ犬山ニ至ル
二	城中小口神社	七	織田遠江守家臣屋敷
三	馬 廐	八	遠江守退隱後ノ万好軒
四	馬 場	九	幼川(水源ヲ八曾山ニ起ス)
五	家老田中屋敷		

図4-35 大久地城(小口城)之図

したがって伝承、あるいは地域の人々の話を総合し、簡明にしるすことつぎのようである。
 なおこの中で大口村誌を参考に記述を進めたものが多いが、これにしるされていく跡地も、今日では急激な地域開発などにより、ほとんどがその痕跡を見ることができないのが残念である。

第一項 城跡・邸跡に関する遺跡

大久地城
(小口城)跡
 小口字城屋敷地内(中小口)、
 五条川沿い大口町立北小学校
 の西に城跡がある。

長禄三年(一四五九)織田遠江守広近がここに城を築き「箭筈城」といいここに居住した。城郭は東西約五〇間(約九〇メートル)、南北約五八間(約一〇五メートル)、四方二重壕であった。

城主広近は、居城一〇年余で文明元年(一四六九)犬山に城を築いて移住したが、文明七年には再びこの地に帰り別邸を造営し(万好軒と称す)閑居した。のちこの城は信

長の軍勢に攻略され廢城となつたが、この間およそ一〇年ともいわれている。

この城跡は明治末期から大正時代に至り、大口第二小学校(現大口北小学校)の敷地となり旧形を失つてはいるが、やぐら台の一部と考えられる地が現存し、ここに大正四年一月建立の標柱「小口城趾」がある。

万好軒

大久地城(小口城)主織田広近が、犬山の木ノ下城から文明七年(一四七五)この地にかえり隱邸として住んだのが万好軒とよばれ、この邸宅は広近が延徳三年(一四九一)九月没した後、明応元年(一四九二)織田伊勢守敏定が、広近の遺命を請け禪刹「吉祥山妙徳寺」と改めたといわれる。したがって現在同寺の庫裡は改修が重ねられてはいるが、万好軒の遺構と見られている。

田中邸跡

城主織田遠江守広近の家老、田中惣右衛門忠春が住んでいたところといわれ、通称田中屋敷ともよばれ上小口地内字田中とよぶ一帯である。古老の話によるとこの附近には、周りに土堤をきずいたかなり広い土地があつたといわれ、これが邸跡であつたと考えられるが、今日ではその痕跡も見えない。

小池屋敷跡 と若ヶ橋

平安時代、北面の武士であつた小池民部貞利という人が、余野の地に来てその名を与九郎と改め、郷前(南の方)に大きな屋敷を構えて永く住んでいたといわれ、この跡一帯を小池屋敷とよび、そこには屋敷を示す門の跡もあつたと伝わっている。またこの附近に小池与九郎は風雅を楽しむため、邸を設け松・桜などの木を植え、近郷の雅人を招き和歌を詠じ暮らしたと伝えられ、古老は現在余野地内下小口境にある地「若ヶ橋」は、「わかんぼし」、「和歌ヶ橋」ともするし、この字名はこうしたところから付けられたものであると語っている。

磨山(丸山)

中小口妙徳寺の裏西、城跡三の丸にあたる地に城主織田遠江守広近公の埋葬地がある。この地を往古より「磨山^{マロヤマ}」とよんでいる。現在、妙徳寺境内には織田遠江守広近の墓碑(宝篋印塔)が残っている。

またこの近くには大久地城(小口城)主織田与次郎信康、(第七代城主か)の旧宅があったとも伝えられ、ここには供養のため石碑が建てられている。

この城跡については、地元でもこれに係る
中嶋左兵衛
尉城跡
言い伝えもなく、その沿革を示す資料もな
いが、天保年間に作成された村絵図(徳川

林政史研究所所蔵)にその存在がしるされている。

この村絵図でその場所を見るに、現在の町役場東側の
五条川沿いの一角にあたる処に「中嶋左兵衛尉城跡」と

しるされ、その南側には「丸ノ内」、北側には「丸裏」と地名が書かれ、丁度この地は現在の小字名「丸」にあたる地
であり、昔この辺りには土塁を思わせる地形があったといわれ、城の規模は明らかでないが、五条川を堀に利用し、
四方、五〇メートルほどでなかったかと考えられる。一方中嶋氏は、往古(約四〇〇年前)この地域にかなりの勢力
をもつ、豊臣の家臣であったことは菩提寺である、一宮市の妙興寺所蔵の史料で明らかである。

また中嶋氏については、当町余野神社宝物「青銅鐙口」の寄進(慶長二年・西暦一五九七)からもこの地とは、格別
深い関係にあったと考えられる。



図4-36
織田遠江守広近の墓碑(中小口妙徳寺)

第二項 寺社に関する遺跡

長樂寺

豊田字長樂寺地内に在り、今は耕地でその跡を見ることはできないが、この寺は尾張の地では非常に古い寺院であつたと伝えられる。

永祿年間に織田一族の戦いの折、兵火により焼失したと伝えられている。その後本寺の和尚桂林が寺を建立し寺号を桂林寺とし、今日に至っているという。

現在の桂林寺の鐘は、長樂寺のもので「長樂寺」の銘が刻まれている。

定光寺

中小口地内北の方に定光寺という地名がある。この地に定光寺があつたといわれ、千年以前のもので一説には真言宗であり、また部落に伝わる話にこの寺は、天文年間(二五三―一五五四)この地にあつ

たもの「水野の定光寺」へ(現在の東春日井郡品野町)移転したという。

しかしこれについては、定光寺の開源年代と合致せずその建造物の一部を移築したぐらいのことでないかと推定される。

その他に

寺院址といわれるところがつぎのようにあるが、これらを証拠付ける資料、址などはつきりするものが少ない。